

高梁市地域包括支援センター
令和3年度事業評価及び令和4年度計画

● 高梁市地域包括支援センター事業費総額

事業費	R2決算	R3決算見込	R4当初予算
事業勘定 (地域支援事業)	223,258,863	221,798,932	254,669,000
サービス勘定 (居宅介護支援事業)	10,089,209	4,703,255	9,582,000

●介護予防・日常生活支援総合事業

1. 訪問型サービス・通所型サービス

事業費	R2決算	R3決算見込	R4当初予算
①訪問介護サービス	18,264,793	19,452,393	20,116,000
②通所介護サービス	49,598,042	46,272,109	61,017,000
③介護予防ケアマネジメント	5,100,470	4,491,020	6,366,000
審査支払手数料	310,833	265,090	420,000
合 計	73,274,138	70,480,612	87,919,000

事業名	①総合事業訪問介護(現行型・緩和型) ②総合事業通所介護(現行型・緩和型)			
取 組	【訪問現行型】ホームヘルプサービス 【訪問緩和型】ミニホームヘルプサービス 【通所現行型】デイサービス 【通所緩和型】総合事業ミニデイサービス、通所型サービスA、通所型サービスB			
実 績		R2実績	R3実績	R4計画
		実日数(件数)	実日数(件数)	実日数(件数)
	訪問介護	5,961(1,136)	6395(1,157)	6,169(1,152)
	通所介護	10,290(1,872)	9,351(1,681)	11,406(2,089)

事業名	③介護予防ケアマネジメント			
取 組	ケアプラン作成			
目 標	サービス利用者の延べ人数			
	件数(人)	R2実績	R3実績	R4計画
	ケアマネジメント	1,321人	953人	1,600人

2. 一般介護予防事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4当初予算
① 介護予防普及啓発事業(健康づくり課)	4,101,963	3,125,870	3,346,000
一般介護予防事業(人件費)	28,631,277	26,406,890	18,840,000
②地域介護予防活動支援事業	296,908	165,927	1,064,000
③地域リハビリテーション活動支援事業	66,000	102,000	144,000
④通所付添サポート事業	602,651	490,428	2,943,000
合 計	33,698,799	30,291,115	26,337,000

①介護予防普及啓発事業(健康づくり課)

	R2実績	R3実績	R4計画
ミニデイサービス	9地区 (延60会場)	9地区 (延62会場)	9地区 (延100会場)
介護予防教室	37会場・90回	43会場・100回	46会場・123回
運動指導士派遣	65回 998人	69回 944人	81回 1,581人

②地域介護予防活動支援事業

「元気なからだづくり隊グループの活動支援」と「通いの場」の育成、「地域活動導入」を支援し、閉じこもり防止と介護予防の意識向上を促進する。

(ア)「元気なからだづくり隊グループの活動支援」と「通いの場」の育成

事業名	地域介護予防活動支援事業			
取 組	元気なからだづくり隊活動支援			
実績	市内全域 ＊第8期介護保険事業計画			
		R2	R3	R4
	目標	21	23	25
	実績(見込み)	21	21	23
	活動者数	416	438	440

事業名	地域介護予防活動支援事業			
取 組	通いの場 活動支援補助金			
		R2実績	R3実績	R4計画
	実 績(件数)	7	7	9
実施内容	週1回開催で6カ月継続などの条件を満たした介護予防活動団体へ、活動補助(上限額38,000円)と構成員補助(65歳以上1人100円)を合わせた補助金を助成する。			

③地域リハビリテーション活動支援事業

岡山県リハビリテーション専門職団体連合会からリハビリ職の派遣を受け、地域ケア個別会議等でケアプランに対する助言、指導を受ける。実績 月1回×12カ月

④通所付添サポート事業

地域住民主体による「通いの場」への送迎を行う事業。高齢者の引きこもりを予防するため2人1組で誘い出し、「通いの場」への移動支援を行う。巨瀬・落合・川上で実施し、令和4年3月より新たに川面で開始した。

●包括的支援事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
1. 総合相談事業	7,392,920	10,581,460	13,698,000
2. 権利擁護事業	555,800	363,000	614,000
3. 地域包括支援事業	62,752,737	63,127,965	70,421,000
合計	70,701,457	74,072,425	84,733,000

1. 総合相談事業

事業名	総合相談支援事業
事業内容	高齢者の総合相談窓口として地域包括支援センターと地域包括ステーション、市内4か所の在宅介護支援センターで、相談業務及び実態把握を行う。 委託事業所 ゆうゆう村在宅介護支援センター 白和荘在宅介護支援センター 在宅介護支援センターグリーンヒル順正 高梁市社会福祉協議会在宅介護支援センター
目標	訪問による実態把握を行い、要援護者の早期発見・対応に繋げる。
実績	・総合相談 3,079件 【R2 3,441件】
	・実態把握 1,078件 【R2 1,343件】
評価	各在宅介護支援センターへ配付している75歳以上の独居高齢者名簿を活用し、地域の高齢者の実態把握に努めた。担当者の顔写真入りのチラシを実態把握で配付することで相談窓口の周知を行った。
計画	総合相談窓口の周知のためにホームページの更新や広報誌、行政放送CM、民生委員へ広報を行う。介護予防・重度化予防のために、要援護者が早期に相談できる体制づくりを行い、訪問による実態把握を通して早期発見・対応に繋げる。

2. 権利擁護事業

事業名	権利擁護事業
事業内容	・高齢者に対する虐待の早期発見・対応、生活上の困難事例等について、高齢者虐待防止チーム(弁護士、司法書士、社会福祉士)の助言、指導により問題解決を図る。 委託先:公益財団法人 リーガルエイド岡山 〔弁護士〕小野 寛之 〔司法書士〕 林 忠治 〔社会福祉士〕加藤 貴之 ・被虐待高齢者の避難先の確保を円滑に行い権利擁護の促進を図る
目 標	虐待の早期発見、早期対応、高齢者の権利擁護を理解し、虐待予防に繋げる
実 績	高齢者虐待通報件数 5 件 【R2 3件】
	権利擁護・虐待相談延数 111件 【R2 94件】
評 価	・ケアマネジャーや養介護施設従事者等に向けて高齢者虐待防止研修を実施し、虐待防止や早期発見・対応の周知を行った。 ・虐待防止定例会議を開催し、高齢者虐待防止チームから専門的助言を受けることにより、虐待防止体制の強化を図った。
計 画	高齢者虐待防止について周知を行い、虐待の防止、早期発見・早期対応を行う。

3. 地域包括支援事業

事業名	(ア)地域包括支援センター運営事業 (イ)地域ケア会議推進事業
事業内容	・地域包括支援センターの運営 ・地域包括支援センター運営協議会及び各委員会、地域ケア会議の開催

令和4年度 高梁市包括支援センター体制

職員の配置状況 13人

管理者	保健師	社会福祉士	主任介護支援専門員	その他(臨時職員含む)
1	4	5	2	1
基準人数	2	2	2	

＊人員基準は、高齢者人口3,000人から6,000人に対し、保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員をそれぞれ1人配置することとなっており、本市の高齢者人口は、11,838人(R4.3月末)であるため、基準人数を満たしている。

●在宅医療・介護連携推進事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
在宅医療・介護連携推進事業費	117,258	2,324,546	2,711,000

事業名	在宅医療・介護連携推進事業
事業内容	医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療と介護を一体的に提供するために、関係者間の連携強化を図る。
実績	1. 在宅医療・介護の普及啓発 高梁市医療・介護市民公開講座を吉備ケーブルテレビで録画放送し、「成羽病院の紹介」と「健康寿命の延ばし方教えます！」と題した講演を行い、在宅医療・介護連携の普及・啓発を図った。 2. 人生会議(ACP)の普及・啓発 人生会議(ACP)の普及・啓発のツールである話し合いガイドと記入シートを作成した。 3. 連携支援システムの利用促進 多職種連携システム「やまぼうし」の操作研修を開催し、利用促進に取り組んだ。また、WEB会議機能を活用し、安心・安全な環境下で会議や研修会等を実施した。 4. 多職種連携研修会 市内専門職を対象に、「安心・安全な食のために」と題した研修会を開催し、専門職のスキルアップを図った。
計画	1. ACPツールを有効活用して人生会議(ACP)の具体的実施 2. 薬剤師との連携を焦点にした多職種連携研修会の開催

●生活支援体制整備事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
生活支援体制整備事業費	12,904,000	15,944,339	16,416,000

事業名	生活支援体制整備事業
事業内容	第1層、第2層の協議体を設置し、既存資源やニーズ・課題を共有し、資源開発、担い手の育成をしつつ、高齢者の生活支援や介護予防の推進を図る。 《生活支援体制整備事業委託事業 委託先：高梁市社会福祉協議会》 ◇第1層協議体(市町村単位) ・地域ニーズと資源の状況の見える化 ・既存の地域資源やサービスを利用した地域ごとのサービスの検討 ・第2層協議体との連携、ネットワーク化 ◇第2層協議体(地区社協) ・地区ごとの取組方針を検討 ・地域資源やニーズ見える化 ◇生活支援コーディネーター ・第1層 地域包括支援センター 兼務 1名 ・第2層 高梁市社会福祉協議会職員 専任 4名
実績	令和3年度から第2層協議体の生活支援コーディネーター4名を専任で配置し、地域特性に応じた活動を展開した。また、在宅の介護専門職の不足等が今後想定されることから、在宅生活支援・通いの場 ボランティアを養成した。
評価	第2層協議体との話し合いと第2層コーディネーターの調整から、令和3年度に新たに1地区で、通所付添サポート事業が開始された。また、コミュニティカフェを出張カフェとして開催する地区もある。 地域活動の推進や協議体間の連携に第2層生活支援コーディネーターの役割は今後ますます重要となる。
計画	全地区に配置された専任の第2層生活支援コーディネーターと、14地区の第2層協議体において地域課題のすり合わせ、目標設定、目標達成への支援を進める。 また、高齢者の生活を地域で支える担い手として、ボランティアの更なる養成・育成に取り組む。

●認知症総合支援事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
①認知症初期集中支援推進事業	61,200	0	302,000
②認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業	63,000	80,997	315,000
③認知症ケア向上推進事業	980,239	1,096,500	1,490,000
合 計	1,104,439	1,177,497	2,107,000

事業名	①認知症初期集中支援推進事業 必置事業(H30年度～)
事業内容	認知症サポート医を含めた認知症初期集中支援チームにより、診断を受けていない方、治療中断の方等で、認知症と思われる対象者を医療や介護へ繋ぎ、自立した生活を支援する。 認知症初期集中支援チーム員(研修受講済者):保健師 3名、社会福祉士 1名 介護福祉士 1名 チーム数:1
実績	新規初期集中支援チーム員の養成 2名 初期集中支援チーム派遣:困難ケース 1件
評価	コロナ禍のため新規初期集中支援チーム員養成できず、全国的に認知症初期よりも困難ケース支援を中心にチームが動いている現状があり、相談があった時にタイムリーに支援できるように体制を整えていく。
計画	認知症初期集中支援チームの周知、支援困難な独居高齢者の実態把握をすすめる。

事業名	②認知症サポーター活動促進・地域づくり推進事業
事業内容	地域における認知症高齢者とその家族への相談・支援と、支援体制を構築し関係者間の連携強化を行う。 地域包括支援センター 5名(兼務:保健師3名、社会福祉士2名)
実績	新規に保健師2名が認知症地域支援推進員研修を受講した。 ・広報たかはし、行政放送、認知症を知る講座の開催、マグネットステッカー、啓発ポスターにより、9月アルツハイマー月間に合わせて認知症理解推進の取組を行った。 ・高梁市図書館との協働で、認知症を知るフェア、ワークショックを行った。 ・認知症の人、家族への個別支援➡有漢(6)、高梁(4)、落合(1)、巨瀬(3)、中井(1)、備中(5) ・認知症サポーターステップアップ講座を3箇所で開催した。
評価	9月アルツハイマー月間に合わせて、認知症理解推進の取組を行うことができた。この取り組みは今後も継続が必要である。また、チームオレンジ構築に向けて認知症サポーターステップアップ講座を行うことができた。
計画	認知症サポーターを中心にした本人・家族のニーズと支援をつなぐチームオレンジの構築、認知症サポーターの活躍の場の開拓。 各地区での認知症サポーターステップアップ講座の開催。

事業名	③認知症ケア向上推進事業
事業内容	地域密着型施設を始め、認知症対応の出来る専門職やキャラバン・メイトがいる事業所、ボランティア団体等により認知症の人とその家族、地域の人が集う場（認知症カフェ）を運営する。
実 績	認知症カフェ 継続8、新規1 計9カ所
	利用者：735人（認知症75人、家族13人、一般647人、相談11件）
	☆高梁圏域 カフェ福ちゃん（福実会）・カフェ すずらん（有限会社 竹谷急送）・ふらっとカフェオレンジ（グループホーム ウエルネス津川）・カフェ「おしゃべり広場」（ボランティア団体 オレンジ・カフェ「おしゃべり広場」）・マスカットカフェin高梁（（株）マスカット薬局） 【新規】カフェキク（ボランティア団体 カフェキク） ☆成羽圏域 なりわ茶屋（まっくらクリニック）・なりわ茶屋in川北（㈱ゆう） ☆川上圏域 かわかみ茶坊（ボランティア団体 かわかみ茶坊）
評 価	感染症対策を施して、安全に認知症カフェの運営を行うことができた。（緊急事態宣言中は活動自粛） 令和4年1月から「カフェ キク」（ボランティア団体 カフェキク）（伊賀町）が運営を開始した。しかし、有漢・備中地域には認知症カフェがない。 介護保険サービスを利用しない認知症の人やその家族が安心して通える認知症カフェが必要。
計 画	認知症カフェのない有漢地域、備中地域へ認知症カフェ開設を働きかけ

●地域ケア会議推進事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
地域ケア会議推進事業	145,586	99,123	307,000

事業名	地域ケア会議推進事業
事業内容	高齢者が住み慣れた地域で尊厳ある生活を可能な限り継続できる「地域包括ケアシステム」の実現をめざし、専門多職種及び地域の関係者により構成する会議（地域包括支援センター運営協議会、地域包括システム検討委員会、認知症施策検討委員会、在宅医療・介護連携推進協議会、各種ケース検討会議等）の運営を行う。
目 標	各種会議等を通じて地域課題の抽出を行う。
実 績	地域包括支援センター運営協議会 2回（内1回書面開催） 小地域ケア会議 117回、多職種事例検討会議 1回、地域ケア個別会議 24回
評 価	会議等の開催により関係者間で課題を検討した。
計 画	地域ケア個別会議等に提供された事例より課題を集計し、検討課題の抽出をはかる。

※地域包括システム検討委員会、認知症施策検討委員会、在宅医療・介護連携推進協議会の詳細は、会議毎に報告

●任意事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
任意事業	31,458,772	27,409,275	34,139,000

1. 介護給付適正化事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
①介護サービス事業者適正化支援事業	52,000	47,680	89,000
②介護費用適正化対策事業	3,297,529	1,114,749	1,230,000
合 計	3,349,529	1,162,429	1,319,000

事業名	①介護サービス事業者適正化支援事業
事業内容	市内の介護支援専門員を対象に研修会を実施し、資質向上と情報交換を図る。
目 標	アセスメント力の向上等制度改正に基づく内容を充実させる。
実 績	○ 居宅及び介護保険施設、サービス事業所に従事する介護支援専門員に対して、研修会を実施。 ・1回目 9月3日(金)「介護支援専門員が直面しやすい倫理的な課題やハラスメント対策への対応」 参加者 40名 ・2回目 10月7日(木)「施設ケアマネの役割とアセスメントの視点」 参加者 34名 ・3回目 10②月9日(木)「在宅生活における服薬管理と支援について」 参加者 40名
評 価	コロナ対策のため参集研修からWeb研修へ切り替え開催。倫理について再確認し、各々が注意すべき個人情報の管理とハラスメントへの対応を検討できた。ケアマネ業務の専門性の向上のため日々のケアを見直す必要性も学び、家族と本人の想いの違いについても再確認した。またポリファーマシー等についての学びからも専門職の専門性発揮と連携の重要性について学びを深めた。
計 画	自立支援に資するケアマネジメントの再認識を含めた専門的知識の習得と在宅支援に向けた医療と介護の連携等についての研修会(居宅向け・施設向け)を企画。

事業名	②介護費用適正化対策事業
事業内容	岡山県介護給適正化計画に基づき、市町村保険者が取組むべき事業の実施 認定調査状況チェック、ケアプランチェックや住宅改修及び福祉用具に関する調査
実 績	介護給付費通知 2,904件
評 価	認定調査について、市職員の調査も別の職員が点検することにより、制度を高めている。ケアプランについて実地指導時に点検を行った。住宅改修・福祉用具の申請について、設計図や主治医意見書により必要性を判断した。
計 画	今年度も同様に行う予定。

2. 家族介護支援等事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
①家族介護教室事業	3,750	2,700	100,000
②家族介護者交流事業	0	41,200	100,000
③認知症高齢者見守り事業	132,000	130,435	160,000
合 計	135,750	174,335	360,000

事業名	① 家族介護教室事業
事業内容	市内4か所の在宅介護支援センターと成羽、川上、備中地域で高齢者を介護している家族介護者を対象に、介護方法や介護者の心身の健康づくり等を内容とした研修会を実施。
目 標	介護に関する知識や技術を習得できるよう、介護者への支援を行う。
実 績	参加者:30人
評 価	コロナ禍の中での開催が難しく、また他の事業と併せての開催もできていない。
計 画	独自開催だけでなく、他の事業と併せて開催するなど参加しやすい工夫を継続し、全地区で開催する。

事業名	② 家族介護者交流事業(元気回復事業)
事業内容	市内在住で要介護者(40歳以上)を在宅介護している家族介護者を対象に、次のことを目的として交流会を開催する。 ・適切な介護技術・知識の習得 ・介護からの一時的な開放を目的とした介護者相互の交流
実 績	1回目 日時:令和3年7月15日(木)10:00～12:00 内容:講座「やさしい認知症の理解」参加者:8人 2回目 日時:令和3年9月16日(木)10:00～12:00 内容:講座「やさしい認知症の理解」参加者:4人 3回目 日時:令和3年11月18日(木)10:00～12:00 内容:講座「やさしい口腔ケアと嚥下の理解」参加者:5人 ※交流会を開催するにあたり、換気、手指消毒、マスク着用の声掛け、ソーシャルディスタンスの確保など新型コロナウイルスの感染予防対策を実施した。また、4回目を予定していたが、市内感染者の増加に伴い、中止となった。
評 価	補助金によるつくし会運営を検討するため参加者の意見を確認、介護者主体で会を運営することが困難であるため令和3年度から、市主体で家族介護者交流事業を実施した。 参加は少数であったが、参加者からは「認知症介護について、気持ちが楽になった。」「少数で自分の意見を言いやすかった。」などの意見があった。
計 画	市の主催により介護技術・知識の研鑽、介護者の交流の場を開催する。 交流事業:参加者増につながるよう、開催方法を検討する。

事業名	③認知症高齢者見守り事業			
事業内容	みまもりネットワークの体制整備と高齢者位置情報サービスを利用する際の初期導入費の助成を行う。 [みまもりネットワーク] 認知症等により徘徊等で行方不明となる心配のある高齢者の家族に、事前登録をしてもらい、日常の見守りと行方不明における連絡体制、警察や消防等との情報共有を行い、早期発見へ繋げる [みまもりサポーター(大切なあなたを見守り隊)] みまもりメールに登録した団体及び企業の名称 [高齢者位置情報サービス] 高齢者位置情報サービスを利用する際の初期導入費の助成 助成額:10,000円(初期導入のみ、維持費は本人負担) 包括への情報提供件数			
		R1	R2	R3
	行方不明事案	9件	7件	2件
	SOSネットワーク活用	1件(無事発見)	0件(1件高梁市メール・防災ラジオ活用)	0件
目 標	・認知症高齢者の日常の見守り強化、関係機関の連携強化			
	・認知症高齢者を支える家族介護者の負担軽減			
実 績	みまもりネットワーク登録者 29件【R2:25件】			
	みまもりサポーターの登録 39件【R2:39団体】			
	GPSサービス利用補助 0件 【R2:0件】			
評 価	新規に13名がみまもりネットワークに登録し、関係機関で情報共有・見守りを行った。みまもりサポーターのあり方について検討が必要である。			
計 画	事業の周知を行うことで認知症高齢者等の不安解消や家族介護者の負担軽減に繋げる。関係機関との連携強化により、行方不明を未然に防ぎ、万が一行方不明が発生した場合の早期発見に繋げる。			

3. 成年後見制度利用支援事業

事業費	R2決算	R3決算見込	R4予算
成年後見制度利用支援事業	5,149,639	4,105,678	7,943,000

事業名	成年後見制度利用支援事業		
事業内容	要支援者の判断能力の低下による金銭管理の不安を軽減するため、成年後見制度の申立てにかかる諸費用、成年後見人等の報酬の全部または一部を支給し利用を支援する。		
目 標	高齢者の自立支援に向けて、地域との繋がりや生きがいを持ちながら暮らしていくための生活支援サービスを行う。		
実 績	市長申立人数 5人 【R2:4人】		
	報酬助成決定者延べ件数 18人 【R2:23件】		

評 価	令和3年4月に設置された高梁市権利擁護センター（高梁市社会福祉協議会へ委託）と連携を図り、成年後見制度の利用促進を行った。 また、より多くのニーズに対応するため実施要綱を改正し、申立に掛かる費用の助成も可能とした。
計 画	高梁市権利擁護センターとの連携を図りながら、成年後見制度の普及啓発、成年後見制度の利用促進を図る。

4. 地域自立生活支援事業

事 業 費	R2決算	R3決算見込	R4予算
①高齢者見守体制整備事業	2,704,779	2,641,454	3,652,000
②配食サービス状況把握事業	20,000,402	19,201,881	20,600,000
③認知症サポーター養成講座	118,673	123,498	265,000
合 計	22,823,854	21,966,833	24,517,000

事業名	①高齢者見守体制整備事業
事業内容	独居高齢者宅等に緊急通報装置を設置し、365日24時間の見守り体制を構築する。
	●緊急通報装置（委託先：アルソック（株）） 機器を住居内に設置し、電話回線を利用し委託業者が安否や健康状態の確認を行う。通話ボタンを押すことで委託業者への通話や緊急時を知らせることができる。
	●緊急通報装置センサー付き（委託先：㈱シーモス） 通話ボタンを押すことが難しい高齢者に対し、センサーを室内に設置することでセンサー反応により委託業者が安否の確認を行う。動きが無い場合は、委託業者から本人へ安否確認または指定先へ連絡する。
目 標	独居高齢者の見守り支援
実 績	緊急通報装置 月平均利用者 100人 救急搬送 3件
	緊急通報装置センサー付き 月平均利用者 35人 救急搬送 5件
評 価	令和3年度は8件の救急搬送に繋がった。
計 画	今後も広報を行いケアマネジャーや民生委員からの相談、申請により必要としている高齢者のサービス利用に繋げる。 緊急通報装置 R4 利用見込 月平均 100人 緊急通報装置センサー付き R4 利用見込 月平均 40人

事業名	②配食サービス事業			
事業内容	栄養改善が必要な高齢者を対象に配食サービスを行ない、定期的・継続的な安否確認を実施。(社会福祉協議会委託事業)			
目 標	高齢者の自立支援に向けて、地域との繋がりや生きがいを持ちながら暮らしていくための生活支援サービスを行う。			
実 績	配食数 25,213食			
	地域名	R2実績	R3実績	
	高梁	17,322	16,550	4回/週
	有漢	998	579	1回/週
	成羽	4,995	3,678	3回/週
	川上	2,800	2,829	3回/週
	備中	1,585	1,577	1回/週(一部地域は2回/週)
	合計	27,700	25,213	
	*R3実績 登録者数 212人 ボランティア数 584人			
評 価	昨年度に引き続き、個人負担を1食450円で実施。 配食数は昨年度に比して2,000食程度減少した。特に高梁、有漢、成羽地域の、食数が減少している。配食数減の理由は、入院、入所、死亡に加え、新たな配食申請が少ないことによると思われる。			
計 画	事業内容の周知を図り、配食サービスを必要とする高齢者に対して、安定的・継続的にサービスを提供する。			

事業名	③認知症サポーター養成事業			
事業内容	認知症キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座の開催およびキャラバン・メイト活動の拡大			
目 標	認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る認知症サポーターを増やし、認知症の人と家族への支援の輪を広げる。			
実 績	認知症サポーター養成講座 実績 24回 【R2: 22回】			
	サポーター数 実績 483人(うち初回受講者: 394人) 【R2: 436人(うち初回受講者:266人)】 小学生 18人 中学生 13人 高校生 55人 大学生 65人 団体・企業 104人 地域 228人			
評 価	コロナ禍で、小・中学校での開催が少なかった。オンラインでの講座は、吉備国際大学看護学科と郵便局の職員を対象に開催した。			
計 画	認知症サポーター養成講座 計画25回/年 サポーター数 計画625人 対象 学校(小・中・高・大学)、ボランティア団体、事業所等 職域への認知症サポーター養成講座の開催 地域包括支援センター主催での認知症サポーター養成講座の開催			